

2021年2月果実概況

気温は全国的に高く、北日本日本海側で多雨。東日本太平洋側・西日本日本海側は記録的多照。

2月4日、関東地方で過去最も早い「春一番」が吹き、20日には北陸・中国・九州北部・四国でも吹いた。各地寒さも緩み始め、気温は上昇。東京都心では5月上旬の気温を記録する日もあったが日本海側は寒波の影響で吹雪となった。

果実全体の入荷量は前年比107%、価格468円(前年比95%)。みかん類やりんご類の入荷が前年に比べ多く、いちご類は2月上旬から2番果のピークを迎え潤沢な出回り。また気温が高く日射量もあり果菜類の生育は順調に進む。コロナ禍で外食需要は伸び悩み、感染拡大の影響の出始めた前年同月に比べ、若干安の結果となった。

みかん類は入荷124%、価格313円(101%)。静岡産の「青島みかん」中心の販売。みかん類全体の作柄は良く、引合いはM中心の小玉に集中。月を通して販売環境は悪くなく、概ね順調だった。「袋掛けみかん」の販売は中旬にて終了となった。

かんきつ類は入荷95%、価格347円(107%)。「不知火」の販売が加温物から露地物に変わり出荷量が増える。「伊予柑」「ぼんかん」と他産地多品種が前年並みに出揃う。一部寒波の影響もあり、価格は若干高で推移した。

りんご類は入荷120%、価格274円(80%)。「サンふじ」「ジョナゴールド」の産地在庫量は少なかった前年を上回るも、「玉林」は障害果の発生により少なかった。旧正月に向けて輸出の需要が高まったことから、大玉・高品質物は輸出に向けられ、下等級比率は高かった。

かき類は入荷51%、価格481円(121%)。福岡産は本年度の露地物が前年に比べ約2~3割減のため、冷蔵物も少なかった。岐阜産も小玉サイズから前年6~7割の出回り。かき類全体量は前年の5割と大幅減となり、価格は前年の2割高となった。

いちご類は入荷100%、価格1,411円(99%)。1月の寒波の影響で生育ペースは緩慢も2月上中旬に各地で2番果のピークを迎え大玉中心となる。コロナ禍で外食需要は減るも、テイクアウトや洋菓子の売上げは悪くなく、価格は前年並み。

メロン類は入荷103%、価格907円(94%)。静岡産は1月の低温で肥大は進まず、上旬までは小玉果で推移した。中旬以降は肥大回復したものの、コロナ禍で業務の動きは鈍く年明けから続く前年安の流れは変わらなかった。

キウイは入荷78%、価格523円(101%)。輸入品の切上がりにより、2月は国産中心。主力福岡産の肥大が鈍く、中心はMサイズ(33玉)中心を受け、出荷量は前年を下回る。

その他施設栽培物では長崎産「ハウスみかん」、長崎産「びわ」、高知産「おうとう」等が少量ながら入荷始まる。